

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

ROEで評価する時代は終わる 原文 (デフタ・パートナーズ・グループ会長)

1. 一定の利益を追求する現在の市場経済を利用しながらも、社会に大きく貢献する企業を全世界に生み出していく。これが私が提唱している公益資本主義の要点である。現在の株主利益を最大化するように設計されたROE（自己資本利益率）では公正な評価はできない。公益資本主義の観点に基づく、新しい指標が必要である。
2. 要素は3つある。1つは、経営の持続可能性。企業がリスクの高い研究開発に挑むことができるのも、潤沢な自己資本があってこそだ。内部留保を厚くして、一定以上の資金を常に保有している企業こそが、持続可能性の高い企業だと考える。不要不急の資金を内部留保せず配当金として株主に還元するというのは、間違った考えと言わざるを得ない。
3. 2つ目は、日頃の改良改善性である。例えば、鉄道会社のように、日頃の安心・安全を徹底的に追求し、死者を出すような事故を未然に防いでいる企業があるとしよう。そのためには、保守に人とお金をかける必然性が生まれるが、こうした努力は、現状は株価に反映されない。理由は、ROEの株式要素ではないからだ。3つ目は富の分配の公平性。企業を率いる経営者の士気を健全に高めるためにも、報酬は適正な価格でなければならない。それは欧米のように高額すぎてもいけないし、日本のように少なすぎてもよくない。経営者の報酬は、一般従業員の30倍程度が望ましいと考える。

(参考:「日経ビジネス」2013年1月7日号)

経営者のための理念・哲学

日本精神の復活

1. 八田與一は、明治19(1886)年、現在の石川県金沢市で生まれ、第四高等学校で西田幾多郎の教えを受けた後、東京帝国大学土木学科に進んだ。八田は卒業後、土木の新天地であった台湾総督府の技師として渡台した。台湾で大事業を成し遂げた八田は「日本精神のお手本のような人」と、現在でも台湾の人々から尊敬を集めている。
2. 日本精神とは、嘘をつかず、不正なお金を受け取らず、己の失敗を人のせいにならず、卑怯なことをせず、己のやるべき仕事に全力を尽くす精神を意味する。果たして、私たち日本人はいま、この言葉に恥じない生き方をしているだろうか。かって、貧しくとも誇りを持って公のために生きていた日本人の姿こそ、今日でも世界の人々に求められている。

(参考:「致知」:2013年3月号)

経営者のための社会学

今後100年間で明治時代へ回帰 (日本の人口)

1. 日本人の人口は今後100年間で明治時代の水準に回帰する。衝撃的だが、かなりの確かさで予想されている日本の将来像だ。国立社会保障・人口問題研究所によると、日本の人口は2004年にピークを迎えた後、2030年に1億1522万人にまで減少。2050年には1億人を切り、2100年には現在の3分の1の4771万人まで減少することが予想されている。
2. 明治維新以降、近代化の過程で4倍に増えた人口は、ほぼ同じ年数をかけて元の水準に戻っていく。世界でもまれに見る人口の増減ぶりだ。しかし、人口減少は高齢化や少子化を伴いつつやってくる。15歳から64歳までの生産年齢人口は、2005年の8442万人から、およそ半世紀後に5000万人を切る水準まで減少する。

(参考:「週刊東洋経済」2012年12月29日・2013年1月5日号)

古典に学ぶ

お金をうまく集めて、うまく使え

「よく集めてよく散じて社会を活発にし、従って経済界の進歩を促すのは、有為の人の心懸くべきことであって、真に理財に長ずる人は、よく集むると同時によく散ずるようであらね」

(解説) お金をさかんに集めてさかんに使い、社会を活気づけて経済を伸長させるよう、優れた人は心がけるべきだ。本当に財産運用が上手な人は、集めることと同時に使うことにも長けていなければならない。

(参考: 渋澤健「渋沢栄一100の訓言」日経ビジネス人文庫)